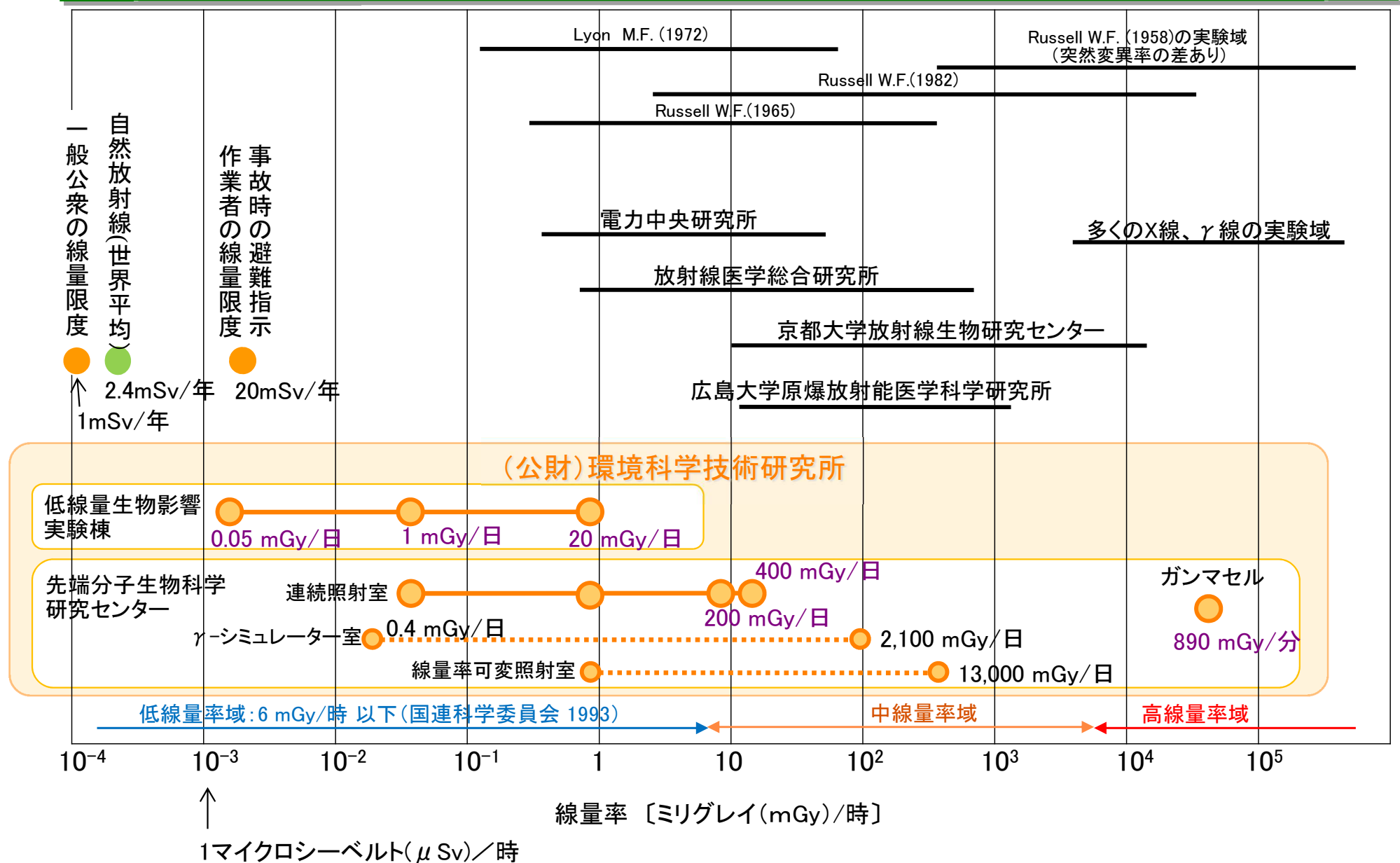


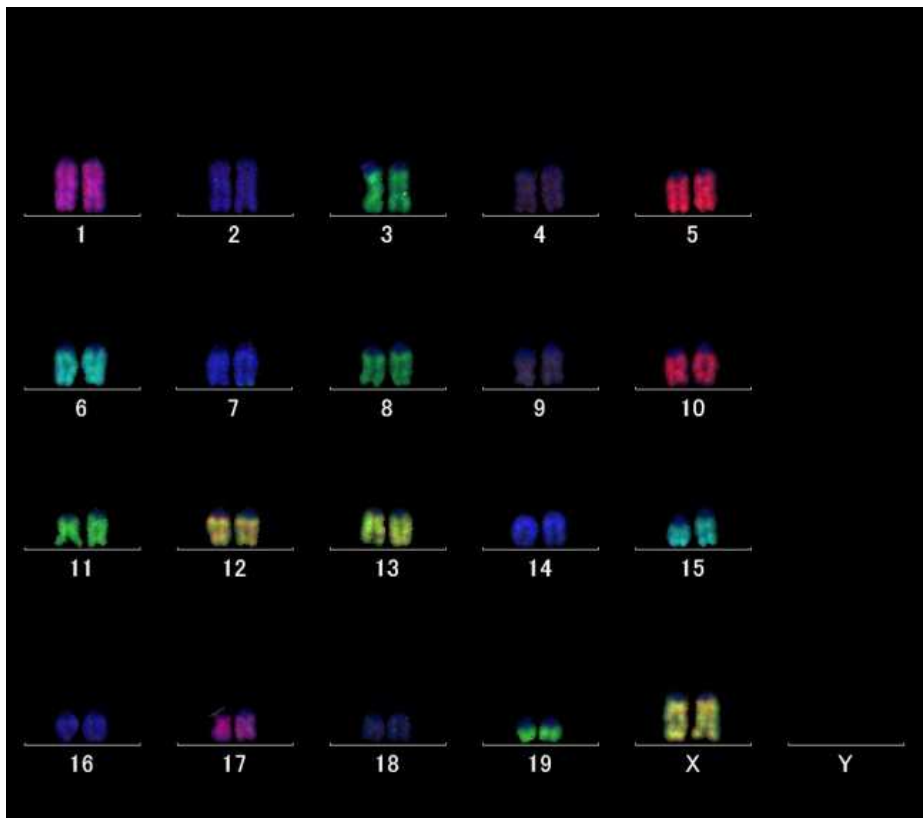
国内外の各研究機関で使用されている放射線の線量率



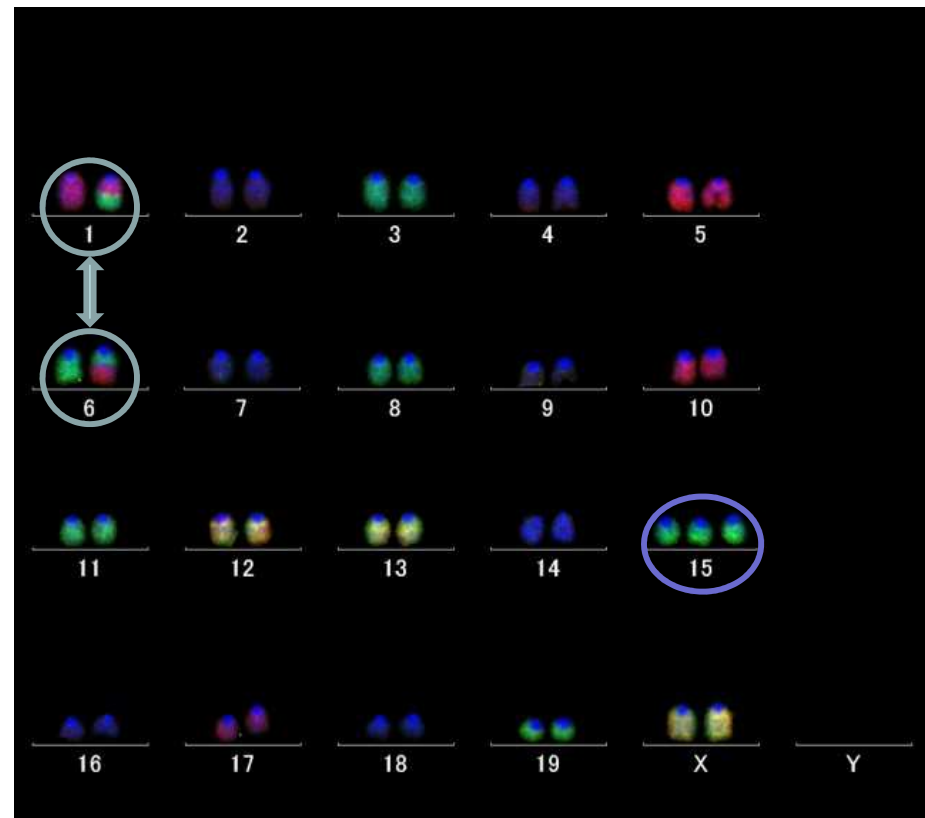
染色体異常の例

各染色体を識別できるようにする特別な染色法を利用して、染色体異常を判定した例

正常



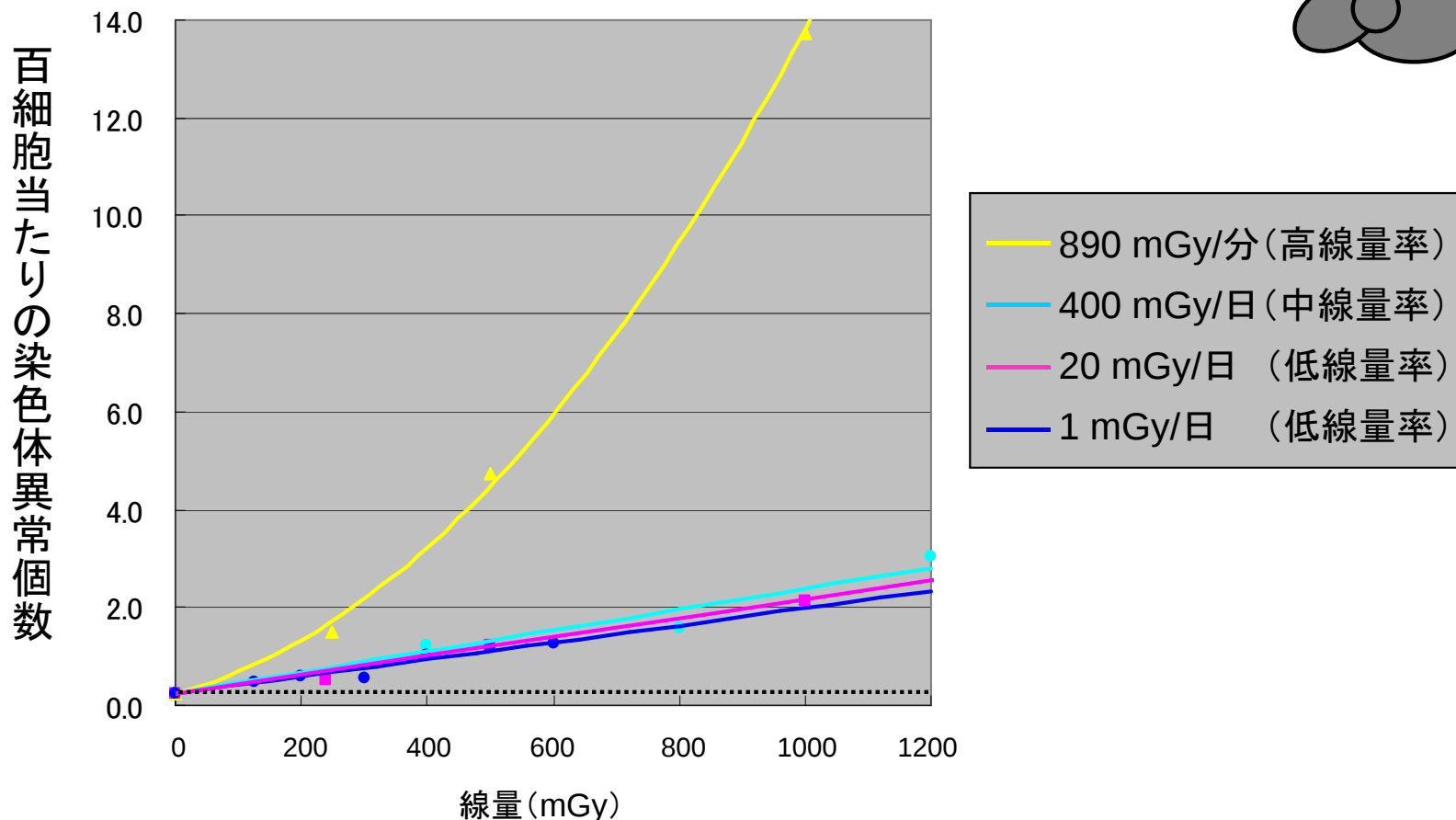
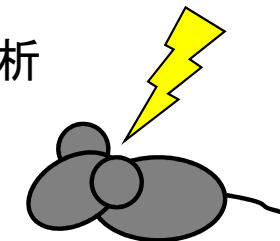
異常



- 1番と6番染色体の転座型染色体異常
- 15番染色体の1本増加

高線量率と低線量率での染色体異常頻度の比較

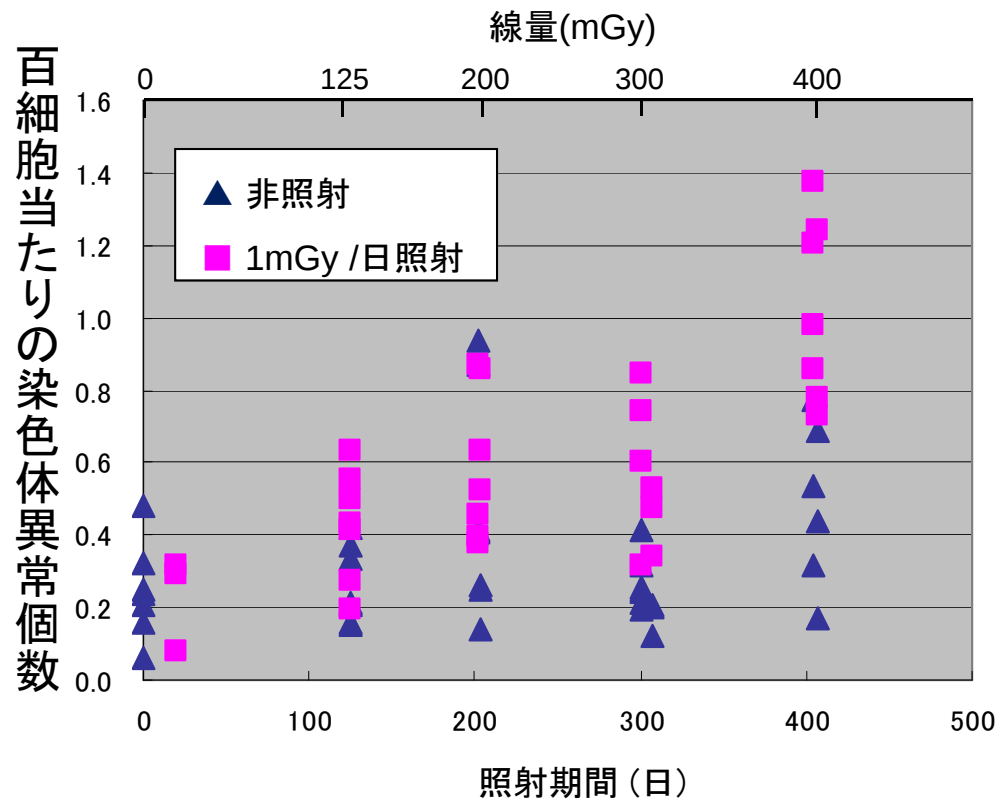
ガンマ線を照射したマウス脾細胞中の血液細胞の転座型染色体異常を解析



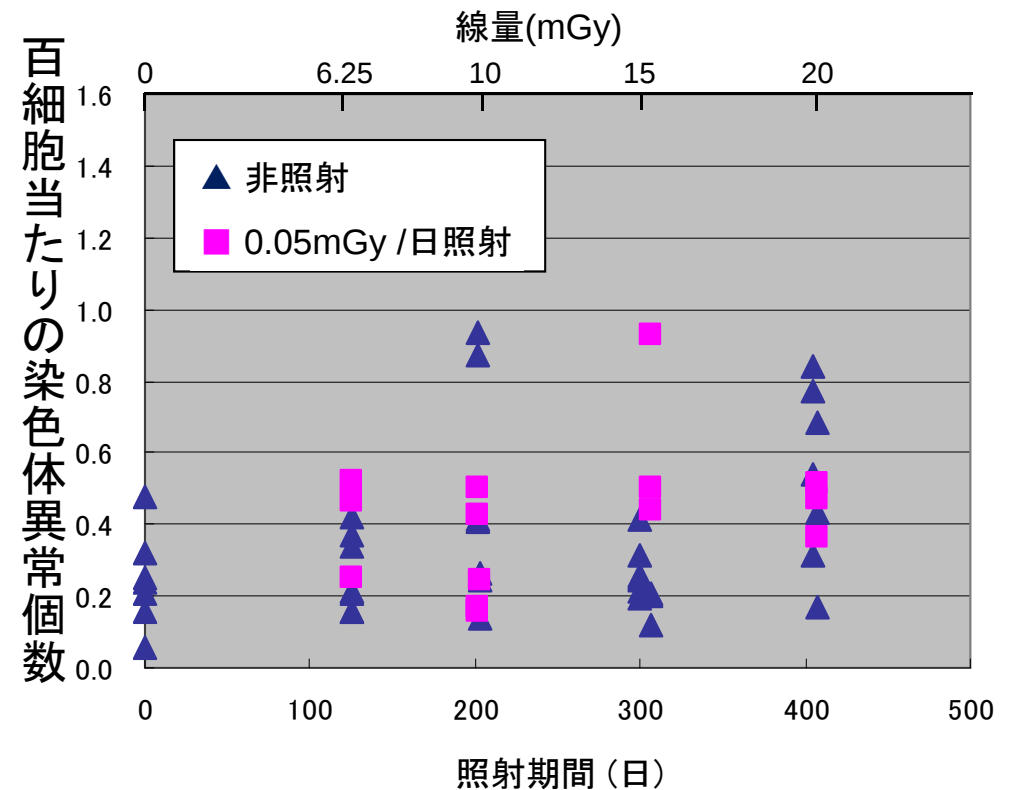
同じ線量でも、高線量率に比べて低線量率の染色体異常は、減少しています。

より低い低線量率での染色体異常頻度

1 mGy/日(45.5 μ Gy/時)



0.05 mGy/日(2.27 μ Gy/時)



放射線を照射していないマウスでも、染色体異常が見られます。

1mGy/日で照射したマウスの染色体異常は、非照射マウスより少し多い傾向が見られます。

0.05mGy/日で照射したマウスの染色体異常は、非照射マウスとの差がこれまでのところ見られません。
(現在、さらに実験データを収集し、精度を上げているところです。)